



TITLE:

精管の自然再吻合

AUTHOR(S):

増田, 富士男

CITATION:

増田, 富士男. 精管の自然再吻合. 泌尿器科紀要 1971, 17(4): 278-279

ISSUE DATE:

1971-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/121246>

RIGHT:

精 管 の 自 然 再 吻 合

東京慈恵会医科大学泌尿器科教室（主任：南 武教授）

増 田 富 士 男

SPONTANEOUS REANASTOMOSIS OF THE DUCTUS DEFERENS

Fujio MASUDA

Department of Urology, The Jikei University School of Medicine

(Chairman: Prof. T. Minami, M. D.)

Unilateral spontaneous reanastomosis of the ductus deferens was demonstrated following vasectomy done 3 months previously. The surgeon should carefully explain this possibility to his patient.

緒 言

精管は再生力が強く、精管切除後自然に再吻合の生じうことはよく知られている。

私は最近その1例を経験したが、われわれは精管切除に当り、より慎重におこなうとともに、自然に再吻合される可能性のあることを、患者に説明しておく必要があろう。

症 例

患者は石川某、32才で、1969年1月21日両側の精管切除術を受けた。手術は成書²⁾に記載されているごとく、陰茎根部近くの陰囊前面で皮膚切開し、精管を精索より剥離したのち2カ所で二重結紮をおこない、その間を約1cm切除した。なお切除断端の電気焼灼は施行していない。

ところが術後7ヵ月余の9月12日、妻が妊娠したので精査のため来院した。ただちに おこなった精液検査（禁欲6日後）では、量3.0ml、乳白色で精子数 $68 \times 10^6/\text{ml}$ であり、採取後40分の検査で運動率も80%以上にみられた。

局所所見では、陰茎根部近くの陰囊前面で、精管切除術施行部と思われる箇所に、右側ではあずき大の結節が2コ並んでみられ、左側にはあずき大のものが1コふれた。

なお妻の産科的検査では妊娠5ヵ月で、受精日は4月中旬ごろ、すなわち精管切除後約3ヵ月と考えられた。

以上の所見より精管の自然再吻合と診断し、同日手術施行した。

手術は上記硬結部の陰囊皮膚上に、約3cmの切開を加え、結節とともにその上下約1cmの正常な精管を切除した。

両側切除標本について、おのおの中核側精管より76%ウログラフィン3mlを注入し、レ線撮影をおこなった。右側は結節部で造影剤が止まり、末梢精管との交通路の再生は認められない(Fig. 1)。いっぽう左側は造影剤が結節の肉芽組織内に溢流し、さらに末梢の正常精管内へと通じているのがみられ(Fig. 2)、左側の精管に自然再吻合の生じていることが確かめられた。

この左側の肉芽組織について顕微鏡的検査をおこなうと、肉芽内の1カ所に精子が多数集まっており、そこに空隙が生じている(Fig. 3)。このようなところを精子がたえず運動進行すれば、recanalizationの可能性が考えられる。

考 察

精管の再生力の強いことはよく知られており、また精管切除後の交通路の再生率についてはいろいろいわれているが、具体的な報告例は少ない。

橋原ら³⁾は精管切除術をおこなった312例について追跡調査をおこない、そのうちの1例(0.32%)に、術後6ヵ月で配偶者に妊娠をみている。また Bunge¹⁾は術後6年目に両側精管の再吻合の生じた例を報告し、術者はあらかじめ患者および配偶者に再吻合の可能性のあることを説明し、その承諾を求めることが必

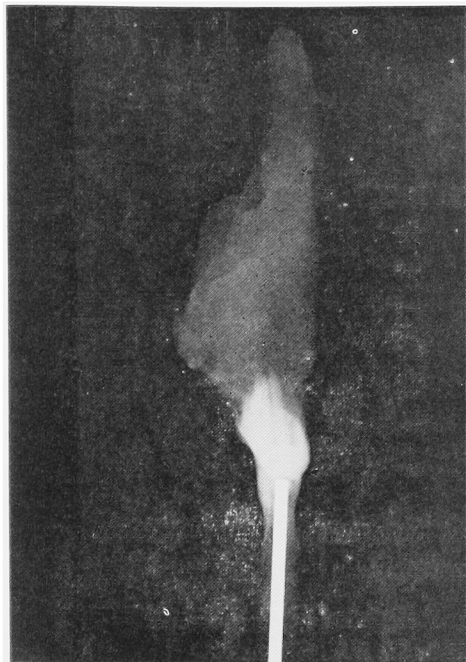


Fig. 1 右側摘除標本レ線撮影
中枢側精管より注入した造影は結節部で止まり、末梢精管との交通路の再生はみられない

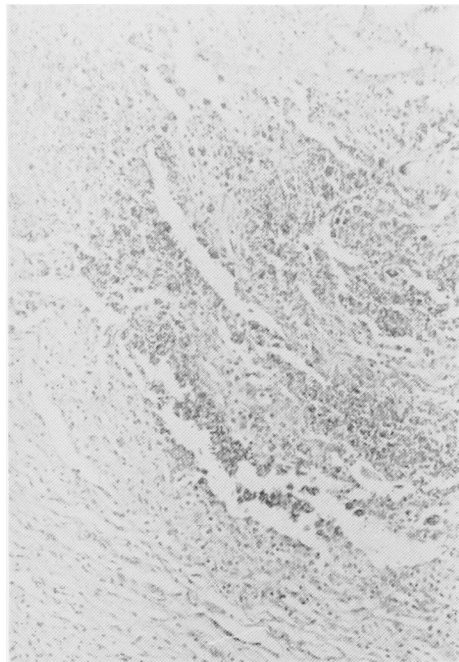


Fig. 3 組織像
肉芽内の1カ所に精子が多数集まり、そこに空隙が生じており、recanalizationの可能性が考えられる。

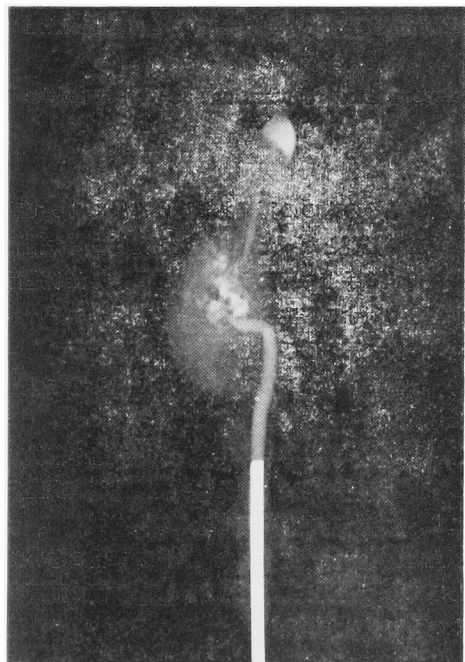


Fig. 2 左側摘除標本レ線撮影
中枢側精管より注入した造影剤は結節の肉芽組織内へ溢流し、さらに末梢の精管へ通じている。

要であるとのべている。

結 語

32才の患者に両側精管切除術をおこない、術後約3カ月に1側精管の自然再吻合を生じた症例を報告した。

(稿を終るにあたり、ご校閲いただいた南 武教授に深謝いたします)

文 献

- 1) Bunge, R. G. : J. Urol., 100 : 762, 1968.
- 2) 市川篤二・落合京一郎編：泌尿器科手術。金原出版，東京 京都，1966.
- 3) 橋原憲章・児玉伸二・行徳雄平：外科診療，3 : 1076, 1961.

(1970年11月4日受付)